神戸山王まつりの紹介

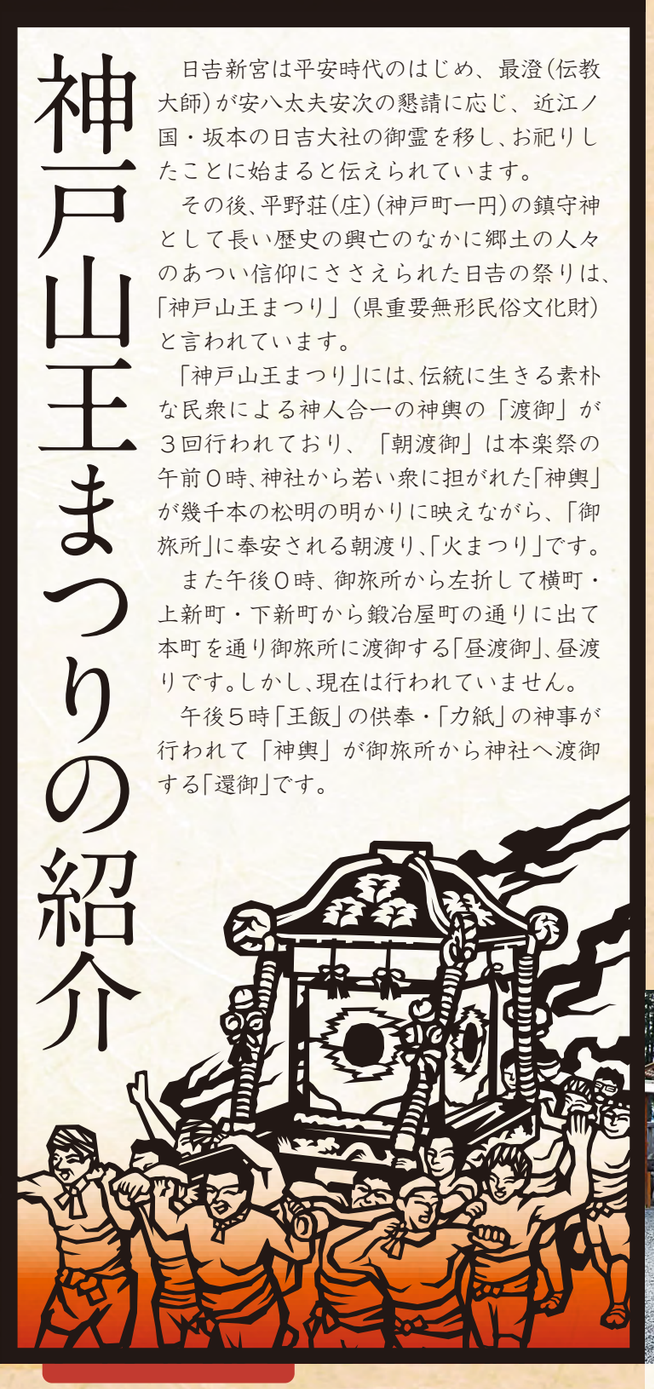
日吉新宮は平安時代のはじめ、最澄（伝教大師）が安八太夫安次の懇請に応じ、近江ノ国・坂本の日吉大社の御霊を移し、お祀りしたことに始まると伝えられています。

その後、平野荘（庄）（神戸町一円）の鎮守神として長い歴史の興亡のなかに郷土の人々のあつい信仰にささえられた日吉の祭りは、「神戸山王まつり」（県重要無形民俗文化財）と言われています。

「神戸山王まつり」には、伝統に生きる素朴な民衆による神人合一の神輿の「渡御」が３回行われており、「朝渡御」は本楽祭の午前０時、神社から若い衆に担がれた「神輿」が幾千本の松明の明かりに映えながら、「御旅所」に奉安される朝渡り、「火まつり」です。

また午後０時、御旅所から左折して横町・上新町・下新町から鍛冶屋町の通りに出て本町を通り御旅所に渡御する「昼渡御」、昼渡りです。しかし、現在は行われていません。

午後５時「王飯」の供奉・「力紙」の神事が行われて「神輿」が御旅所から神社へ渡御する「還御」です。



日吉牛尾宮神輿（うしおのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、１番先頭に渡御する日吉牛尾宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、本町の氏子によって奉舁されています。

本　体	八角形
中心の胴体	高さ：90 cm
台　脚	高さ：21 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：86 cm　長さ：3.90m
棒鼻（前の丁口）の金物	金唐草模様の中央に16花弁の菊花の浮彫り
屋　根	高さ：40 cm　裾の幅：52 cm
屋根の飾り物	16花弁の菊花の紋各1個
頂の擬宝珠	高さ：25 cm　直径：20 cm
御帳（あかね）の鏡	直径19 cm各1枚
胴体の柱の飾り物	上り竜と下り流の浮彫金物
鈴	八角型青銅の駅鈴
鈴　縄	紅白縮緬の2本撚り
座　板	高さ：21 cm　幅：1.43m
座板の打付金物	波と兎

日吉樹下宮神輿（じゅげのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、２番目に渡御する日吉樹下宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、横町・西保・南方の氏子によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：95 cm　幅：91 cm
台　脚	高さ：18 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：93 cm　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	波に千鳥の透彫り
屋　根	高さ：50 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	正面が七曜星３個、左右及び後部は各２個
頂の鳳凰	高さ：30 cm　首から尾：48 cm
御帳（あかね）の鏡	直径30 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	＂前部２本に岩上にたわむれる獅子と笹の葉、及び渓谷の飛沫模様の青銅彫刻金物。後部の柱は牡丹に蝶が右側、岩の上を蝶が飛んでいるのが左側＂
鈴	丸型
鈴　縄	紅白２本の撚り合わせ
座　板	高さ：21 cm　幅：1.48m
座板の打付金物	波に千鳥の透彫り

日吉大宮神輿（おおみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、３番目に渡御する日吉大宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、上新町・安次・丈六道・田（神戸町）と本庄（大野町）の５ケ町によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：98 cm　幅：98 cm
台　脚	高さ：24 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	獅子頭に太鼓を持った舞姿の透彫り
屋　根	高さ：70 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	四方共巻雲と竜の透彫り金物
頂の鳳凰	高さ：30 cm　首から尾：30 cm
御帳（あかね）の鏡	直径30 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	前部２本は左右共鉄拐山人の仙人清遊の唐金彫刻
鈴	丸型
鈴　縄	緋縮緬の巻縄
座　板	高さ：21 cm　幅：1.48m
座板の打付金物	波に飛竜の模様を浮かした彫刻金物

日吉二宮神輿（にのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、４番目に渡御する日吉二宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、三津屋・末守・北一色の氏子によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：98 cm　幅：98 cm
台　脚	高さ：23 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	唐草模様の金物
屋　根	高さ：70 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	五七の桐の金物各１個
頂の鳳凰	高さ：35 cm　首から尾：35 cm
御帳（あかね）の鏡	直径30 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	前部左右２本に神武天皇東征の像。後の左右２本には南朝の忠臣菊池一族の旗上げの像が、何れも金・銀・銅・錫等で浮彫り
鈴	丸型
鈴　縄	緋縮緬の巻撚り、錫縄掛金物は唐獅子の青銅製
座　板	高さ：20 cm　幅：1.40m
座板の打付金物	波に千鳥の浮彫り浮彫りで鋼鍍金

日吉宇佐宮神輿（うさのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、５番目に渡御する日吉宇佐宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、宮町・井田の氏子によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：98 cm　幅：98 cm
台　脚	高さ：23 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	右が竜、左が虎の浮彫金物
屋　根	高さ：70 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	葵の紋
頂の鳳凰	高さ：30 cm　首から尾：40 cm
御帳（あかね）の鏡	直径24 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	それぞれ上部に巻雲模様、下部に波の模様を金で彫刻
鈴	丸型
鈴　縄	緋縮緬の巻撚り
座　板	高さ：18 cm　幅：1.40m
座板の打付金物	波に千鳥の浮彫りで金と銀鍍金

日吉客人宮神輿（まろうどのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、６番目に渡御する日吉客人宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、下新町・福井・下宮・更屋敷の氏子によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：97 cm　幅：98 cm
台　脚	高さ：18 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：1.00m　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	左右共優曇華の花の彫刻
屋　根	高さ：70 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	前部に憂曇華の花３個、左右及び後部は各２個
頂の鳳凰	高さ：33 cm　首から尾：35 cm
御帳（あかね）の鏡	直径28 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	前部右側は養老の孝子源丞内が滝の水を汲んでいる図、左側は楠公桜井の子別れの図、後部は左右共漢詩の讃文の彫刻
鈴	丸型
鈴　縄	緋縮緬の巻撚り
座　板	高さ：22 cm　幅：1.40m
座板の打付金物	波に千鳥の鍍金金物

日吉三宮神輿（さんのみや）

日吉新宮祭典行事に担がれ、最後の７番目に渡御する日吉三宮の神輿です。神輿は貞享４年４月（1687年）に製作されたものです。

現在神輿は、鍛冶屋町・昭和町・川西の氏子によって奉舁されています。

本　体	四角形
中心の胴体	高さ：98 cm　幅：98 cm
台　脚	高さ：20 cm
担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm　長さ：4.00m
棒鼻（前の丁口）の金物	12星の中心に福槌の浮彫金物
屋　根	高さ：70 cm　裾の幅：1.40m
屋根の飾り物	四方共、鳳凰が羽根を広げている模様
頂の擬宝珠	高さ：23 cm　直径：25 cm
御帳（あかね）の鏡	直径30 cm各１枚
胴体の柱の飾り物	前部右がキリン、左が亀、後部右が上り竜、左が鳳凰
鈴	丸型
鈴　縄	緋縮緬の巻撚り
座　板	高さ：25 cm　幅：1.40m
座板の打付金物	波に千鳥の浮彫りで金と銀鍍金